

1. 勤労者医療の推進
2. 患者様中心の医療提供
3. やさしさと和
4. 専門職としての社会的責任の遂行

やまびこ



神戸労災病院院長就任のご挨拶

院長 鷺見正敏

この度、平成26年4月1日付をもって神戸労災病院の院長を拝命いたしました鷺見正敏と申します。平成17年6月1日、神戸医療センター(旧国立神戸病院)から当院整形外科部長として赴任し、整形外科領域の発展のため寄与して参りました。また、平成19年4月1日からは、当院の副院長も兼務するかたちとなり、神戸労災病院全体をも視野に入れてその発展のために邁進して参りました。約9年間とさほど長くはない期間ですが神戸労災病院での勤務を通じて、この病院の長所や短所を十分に理解できていると思っています。今後は、これまで培ってきた知識や経験を基に、この神戸労災病院をさらに新たなステージへと進化させるべく頑張ろうと決意しています。まだまだ、未熟な輩ではありますが、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

神戸労災病院の「病院理念」は「良質で心のこもった医療を働く人と地域のために」です。これは、労災を担っている病院であることと地域に根付いた病院であるという二つの役割を明確に表現しています。この「理念」の底流には、「患者さんのこと」を第一に優先するという「医療」において最も本質的な考え方が織り込まれています。これをもっと簡単に表現するとすれば、「for the patients:フォーザ・ペイシャンツ(患者さんのために)」ということになるかと思っています。そんな「病院」として当たり前のことをわざわざ臆面もなく「理念」にするのかと「お叱り」を受けるかもしれません。しかし、「医者」、「看護師」、「療法士」、「技師」、「薬剤師」、「ソーシャル

ワーカー」、「職員」など病院で働く人たちのためだけでなく、そして「神戸労災病院」という器(うつわ)のためでもなく、常に、一人一人の「患者さんのために」を優先順位の一番に掲げて動く体制を整えなければ

ならないと考えています。「当たり前」のことが、しかし、「病院」にとっては一番重要なことだと思います。

これからも、神戸労災病院の職員全員がこの「理念」を「当たり前」のこととして共有し、さらなる高度な医療を皆さんに提供できる活気あふれる病院であり続けたいと考えています。

万が一、患者さんたちとの間に十分なコミュニケーションが取れていなかったりする色々な局面で、この「当たり前」のことに反するような状況が垣間見えるようでしたら、遠慮ない叱責のお言葉をわたしどもに投げかけていただきたいと思っています。

より良い、そして、より質の高い「神戸労災病院」であり続けるためにも、皆さんからの熱い応援をよろしくお願い申し上げます。



鷺見正敏



肝障害にご注意を!

外科部長 前田裕巳

平成26年4月1日に着任しました 外科 前田裕巳です。よろしくお願い致します。

みなさん!これまで肝臓が悪いと言われたものの、理由も状況もわからないまま、放置していませんか?肝障害の中には、放置しておくとう肝細胞癌に結びつくものがあり、注意が必要です。

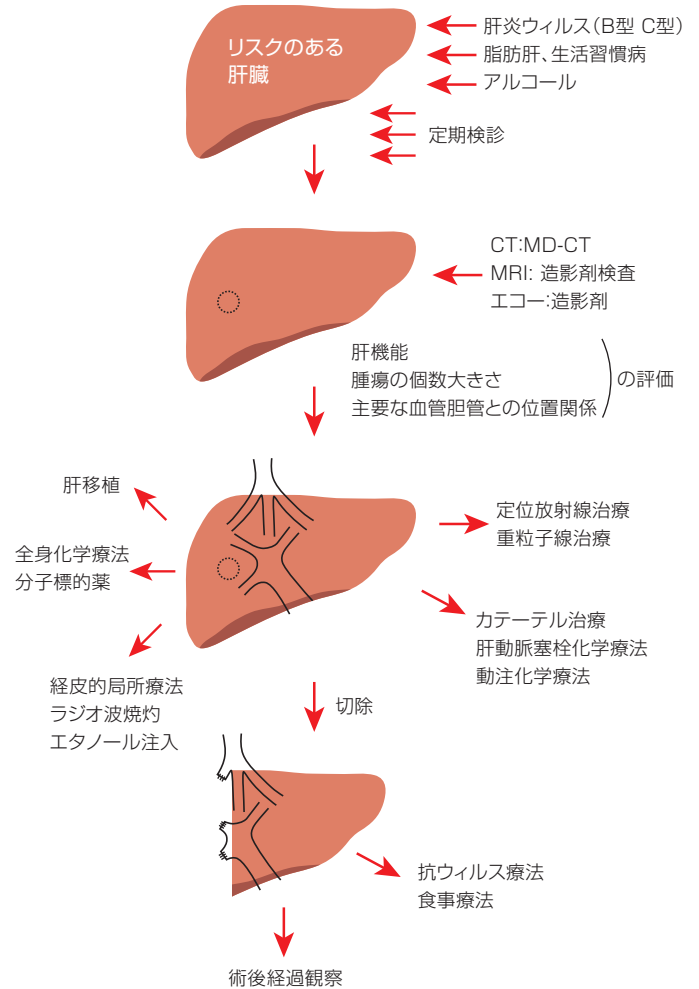
がんの発生、死亡率は年々増加しており、死亡原因の第1位です。また、日本人の約半数は生涯何らかのがんにかかる可能性があると言われてています。その中で肝臓に罹患する確率は男性4%、女性2%と比較的低いですが、肝臓の死亡者数は、男性では、肺癌、胃癌、大腸癌に続く第4位を、女性では第6位を占めていて、罹患率の割に死亡率の高い癌と言えるでしょう。

肝臓には他の臓器のがんが転移した転移性癌と、肝臓自体が癌になった原発性癌があり、原発性肝臓癌の94%は肝細胞癌です。肝細胞癌のほとんどがC型、B型肝炎ウイルス感染に伴う慢性肝炎、肝硬変を背景に発症していますが、ウイルス感染がなくても脂肪肝から発生する肝細胞癌もあり、これらは肝細胞癌のリスクと言えるでしょう。飲酒する人は勿論、飲酒しない人でも脂肪肝を背景に肝硬変になる可能性があり、肥満、糖尿病、高血圧、高脂血症などの生活習慣病と脂肪肝炎、肝硬変、肝細胞癌の関係が今注目されています。

肝臓の手術は出血しやすく、肝障害のために手術不能な場合も多く、切除可能なものは肝細胞癌の約30%と言われていて、治療困難な癌とされてきました。

しかしエコー、CT、MRI等、診断技術の進歩により腫瘍と血管の走行が正確に把握できるようになり、止血器具の進歩も相まって、手術の安全性は格段に向上しています。また、胃腸の手術と同様、低侵襲な腹腔鏡手術の導入も始まっています。

また、手術治療以外にも、経皮的エタノール注入療法、ラジオ波焼灼療法、カテーテルを用いた肝動脈塞栓化学療法、カテーテル留置による動注化学療法、定位放射線療法、重粒子線治療、全身化学療法、分子標的薬、



肝移植など様々な治療法があり、患者様の状態、腫瘍の状態を考慮に入れた治療が可能です。

肝臓は予備力の大きな臓器のため、自覚症状は出ないことが多いので、肝臓の早期発見のためには、リスクのある患者様に対する、定期検査が欠かせません。また、再発しやすい癌ですから、治療後にも、抗ウイルス治療、食事療法を含め、術後フォローアップも他の癌以上に必要です。私たちは肝細胞癌に対し、内科、外科、放射線科の協力は勿論、肝臓専門医、内視鏡外科学会技術認定医とともに、最新の治療に取り組んでゆきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願い致します。

患者の権利の尊重と 患者-医療者のパートナーシップ

- 良質で安全な医療を行います。
- わかりやすく十分な説明を心がけます。
- 治療法などに関し患者様の意向を尊重します。
- 患者様のプライバシーを尊重します。